

様式3 停電への備え

(1) 呼吸・吸引関連機器の作動時間

人工呼吸器

人工呼吸器の内部（本体）のバッテリー作動時間と外部バッテリーの個数、時間について記し、合計で何時間バッテリー対応できるか記載する。バッテリーを使用した後はすぐに充電し、常にフル充電にしておく。バッテリーがフル充電になるまでの時間については、「医療機器販売業者に確認する」「平常時に実際に充電しながら計測する」等があり、定期的に確認する。

酸素濃縮装置

酸素濃縮装置の内部（本体）バッテリー作動時間と酸素ポンベの消費時間について記載する。

例) 1ℓ/分の酸素使用者の場合、165ℓ ポンベが満タンで $165\ell \div 60\text{分} = 2.75$
約2時間45分使用可能という概算である。

吸引器

充電機能付吸引器の連続作動時間を記入する。

(2) 非常用電源

停電が長引くと、バッテリーだけでは足りなくなるので、あらかじめ非常用電源を確保しておく。非常用電源として、「発電機」、「車のシガーソケット・ケーブル」、「蓄電池など」を記載したが、人工呼吸器と直接つなぐことは推奨されていないため、必ずかかりつけ医や医療機器販売業者に使用方法を確認する。人工呼吸器に対して安全な使用が認められている電源は以下のとおりである。

- ・医療機器販売業者が推奨する人工呼吸器専用のバッテリー
- ・医療機器販売業者が推奨する人工呼吸器専用のシガーソケット・ケーブル
- ・医療機器販売業者が推奨する医療機器専用の無停電電源装置（UPS）

(3) 医療機器の使用アンペア

非常用電源から充電するために、医療機器などのアンペア（A）やワット（W）を確認しておく。機器の「W（ワット）数」や「VA（ボルトアンペア）数」を100で割る（ $\div 100$ ）と「A数」とほぼ同じである。機器の起動時は表記されている消費電力の2～3倍の電力が必要なことを考慮する。車のシガーソケット・ケーブルについては、医療機器販売業者の推奨する専用のケーブルやシガーソケット・ケーブル付きインバーター（正弦波に変換でき人工呼吸器などの精密機器につなげられるタイプ）を準備し必ずエンジンを駆動させてからつなぐ。エンジン駆動時は電流が乱れるので故障の原因になる。

(4) 蘇生バッグ

いつでも蘇生バッグを使えるように準備し、万が一の時は蘇生バッグで補助換気する。鼻マスク等を用いた人工呼吸療法（NPPV）では緊急時・災害時に蘇生バッグでの対応をどうするかについて、かかりつけ医と十分に相談しておくことが必要である。蘇生バッグの練習（どのくらいの力で、何秒に1回押すかなど）や点検は、かかりつけ医や訪問看護師に定期的に確認してもらいながら実施することが必要である。照明やパルスオキシメーターなどと一緒に、人工呼吸器使用者の近くに準備しておくようにする。

(5) 東京電力パワーグリッド株式会社への登録

東京電力パワーグリッド社への登録について確認する。登録されていない場合は、制度について説明し、希望者に登録を勧める。また、登録情報に変更・廃止が生じた場合は、速やかに手続きするよう案内する。